

○淀川ダム統合管理事務所天ヶ瀬ダム管理支所(宇治市)

【調査事項】

天ヶ瀬ダム再開発事業について

【調査目的】

近年多発する豪雨災害を踏まえ、既設ダムの治水・利水機能の増強に向けたダム再生事業について調査する。



調査事項を聴取

【調査内容】

天ヶ瀬ダムは、宇治川に建設された多目的ダムで、昭和39年に完成し、宇治川の洪水調節及び琵琶湖からの流出を調整する瀬田川洗堰と連携した操作を実施している。また、淀川流域内のダムの中では、最も三川合流点に近く、宇治川だけでなく、三川合流点の水位を低下させる機能を持っている。

同ダムは、予備放流により洪水調節容量を確保して洪水調節を行っているものの、淀川水系内の他のダムと比較しても、洪水調節容量の割に集水面積が広く、より効率的な洪水調節を実施するため、現在再開発事業を実施している。

同事業では、既存のダムにトンネル式放流設備を新設することで、治水・利水の機能が強化される。治水面においては、下流河道の流下能力向上と併せて、同ダムからの放流量能力を高めることで、ダムの洪水調節容量を効率的に活用できるようになり、宇治川や淀川本川への洪水調節機能が強化される。利水面においては、より効率的な貯水池運用が可能となるため、利水に活用できる容量が拡大し、発電能力の増強が図られるとともに、京都府の水道用水がより多く取水できるようになる。

現在施工されているトンネル式放流設備は、「流入部」、「導流部」、「ゲート室部」、「減勢池部」、「吐口部」で構成されており、水路トンネルとしては日本最大級のトンネルで、下流環境や景観への配慮から「トンネル内減勢方式」が採用されているとのことであった。

事業概要の説明後、再開発事業現場を視察した。

【主な質問事項】

- ・通常放流時におけるトンネル利用について
- ・全国におけるトンネル式放流工法採用状況について
- ・再開発事業及びダム新設に係る予算規模の比較について
- ・洪水調節能力の変化について など



減勢池部現場を視察



○南丹広域振興局〔於：南丹広域振興局亀岡総合庁舎〕(亀岡市)

【調査事項】

老朽化橋梁の架替による利便性向上について

【調査目的】

安全・快適な日常生活を支え、利便性の向上を図る道路整備（橋梁架替）の進捗状況等を調査する。

【調査内容】

一般府道郷ノ口余部線の宇津根橋は、桂川を横断し、昭和33年に架設されたが、老朽化が進行している。また、朝夕の通勤通学時間帯は、車両、自転車、歩行者が混在する状況で、自転車歩行者道が整備されていないことや、車道幅が5.5メートルと狭く、非常に危険な状況となっていることから、平成26年度から同橋の架け替えに着手した。

同橋の架け替えに伴い、幅員を広げるとともに、歩道を設置することで、利用者、特に高校の通学生の安全性の確保や利便性の向上を図ることで、当地域の発展に寄与するものとなる。

事業区間は橋を含め700メートルとなり、新たな橋は、車道2車線で1車線あたり3.25メートルの幅員で、3.5メートルの片側歩道が上流側に整備される。

同事業は、平成30年度までは、国の交付金事業を活用し、補正を除き年間1億円前後の予算であったことから、年間の下部工整備が1基程度という状況が続き、現在、7基のうち4基の下部工が完成した状況である。

なお、今年度から、大規模更新事業として国から多くの予算を確保することにより、残りの下部工を完成させ、さらに上部工の架設工事を今年度内には発注する予定となっている。また、上部工の架設と並行して前後の取り付け道路の整備を行うことにより、新橋の供用を行い、その後、旧橋を撤去する予定であるとのことであった。

また、本工事では、桂川付近に貴重種が生息しているため、橋脚の工事の実施にあたっては、専門家の意見を聞きながら進められているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 事業完成及び旧橋梁撤去目途について
- ・ 繁茂樹木伐採に係る国の補助について
- ・ 事業進捗に係る困難点について
- ・ 交通事故等発生状況について
- ・ 今後の橋梁架け替え予定について など



調査事項を聴取



橋梁架け替え現場の進捗状況を視察

○丹後土木事務所（宮津市）

【調査事項】

昨年度の大雨等による被災からの復旧状況について（丹後管内）

【調査目的】

府民の安心・安全の確保に向け、被災した公共土木施設の早期復旧に向けた事業実施状況について調査する。

【調査内容】

丹後管内では、昨年度、7月豪雨災害や相次ぐ台風の襲来に伴い、公共土木施設171箇所、被害総額約23億円の被災を受け、現在、災害復旧に取り組んでいる。

被害箇所は、現在、9箇所が完了し、残り162箇所のうち153箇所、約9割が発注・契約済みとなっている。全面通行止めや片側通行止め等の解消を図るため、今年度中の復旧を目指し進めている。

昨年7月豪雨による崩土により、19日間の通行止めが生じた国道178号の宮津市日置地区の被災箇所では、法面对策本体工事が完成し、現在、周辺の仕上げ工事をしており、9月末にはすべてが完了する予定となっている。

また、伊根町の筒川では、平成29年の台風18号により護岸崩壊が発生し被災箇所の復旧工事に着手していたが、完成間際の平成30年の台風24号により、再度護岸が崩壊するという災害を受けたことから、より頑丈な構造とするため、通常ブロックから大型ブロックに工法を変更して施工し、現在概ね約80%まで進捗しており、9月末には完了する予定である。

北近畿タンゴ鉄道（KTR）では、平成29及び30年度で、4回の災害を受け、被害箇所は51箇所、被害総額は約9億1,300万円となっている。このため、京都丹後鉄道の総運休日数（部分運休含む。）が66日間となり、運輸収入にも大きな影響を与えることとなった。

鉄道施設内での災害復旧では、鉄道用地外からの土砂流入等、災害発生要因の対策が実施できず被災箇所に近接する箇所で繰り返し災害が発生していることから、国への要望により、繰り返し災害の防止について、北近畿タンゴ鉄道に防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策事業として平成30年度5億円、平成31年度5億4,200万円の予算が配分され、原状回復だけでなく、改良復旧も含めた防災対策事業を進めている。昨年被災した箇所に近接する要対策箇所では、法面对策工や流路工など、抜本的な防災対策工事が実施されている。

府では、沿線市町と連携し、今後も引き続き北近畿タンゴ鉄道の基盤維持の支援をしていくとのことであった。

【主な質問事項】

（KTR（獅子崎周辺））

- ・他の被災現場の状況について



京都丹後鉄道の被災復旧事業の進捗状況を視察

- ・ K T R 路線全般にわたる災害に対する脆弱性調査について
- ・ 盛土箇所での土壌成分の置き換え等について
- ・ 対策工事実施区間について など
(筒川)
- ・ 災害時の水位状況について
- ・ 筒川における水位上昇傾向について
- ・ 水位計及び監視カメラの設置状況について
- ・ 土砂災害警戒区域の指定見直し等の状況について など



筒川の被災復旧事業の進捗状況を視察

○中丹東土木事務所〔於：舞鶴21ビル〕(舞鶴市)

【調査事項】

昨年度の大雨等による被災からの復旧状況について (中丹管内)

【調査目的】

府民の安心・安全の確保に向け、被災した公共土木施設の早期復旧に向けた事業実施状況について調査する。

【調査内容】

中丹管内では、昨年度、7月豪雨災害や相次ぐ台風の襲来に伴い、公共土木施設373箇所、被害総額約54億円の被災を受け、現在、災害復旧に取り組んでいる。

被害箇所の復旧は、現在、33箇所が完了し、143箇所が工事契約済であり、着手率は47%となっている。なお、同管内では、4箇所土砂災害対策事業を実施している。

昨年7月豪雨により、土石流が発生した舞鶴市大畠川地区では、保全対象の上流に多量の土砂が堆積していることから、現在(令和元年8月30日時点)も舞鶴市の避難指示が発令中である。今後の二次災害等を防止するため、災害関連緊急砂防事業として、砂防えん堤等を整備することとし、本年7月に復旧工事に着手している。砂防えん堤は、今年度未完了予定であり、その後、引き続き、治山工事に着手する予定である。

また、綾部市の矢ノ谷川では、同川の右岸斜面で発生した山腹崩壊により、人家2戸が全壊し3名が亡くなられており、今後の豪雨により、さらに崩壊が拡大する危険性が高いため、山腹工の対策工事を実施している。本年6月に工事着手し、年内に完了予定である。その後、両側の不安定な斜面の対策も含めて継続した事業を実施する予定であ

る。

土石流危険渓流である舞鶴市の瀬ヶ谷川支渓では、土石流の発生により人家に土砂が流入し1名が亡くなされており、渓流内に不安定土砂が大量に堆積していることから、今後の二次災害等を防止するため、本年5月に砂防えん堤等の整備工事に着手し、今年度未完了予定である。

また、福知山市の谷河川では、今後の豪雨により地すべりが発生し、形成された土砂ダムの決壊及び斜面上の不安定土砂が再度流出することを防止するため、本年4月から砂防えん堤の整備工事に着手し、今年度未完了予定である。

なお、府内では、現在、上記を含め7箇所です砂災害に関連した災害関連緊急砂防事業等を実施、ないしは着工を進めているが、地権者が不明等により、2箇所の着手見込みが立っていないとのことであった。

【主な質問事項】

(大島川)

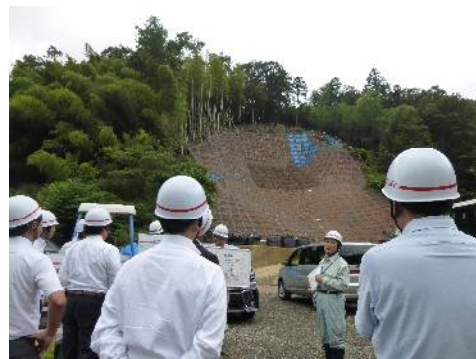
- ・避難指定対象者数について
- ・天然ダムの水量及び深さについて
- ・災害発生時の状況について など

(矢ノ谷川)

- ・災害発生前の状況について
- ・同事例の状況について など



大島川の災害関連緊急砂防事業の進捗状況を視察



矢ノ谷川の通常砂防事業の進捗状況を視察

③ 管外調査

(令和元年11月13日(水)～11月15日(金))

○山形県議会（山形県山形市）

【調査事項】

高速鉄道幹線網の整備に向けた取組について

【調査目的】

山形新幹線整備の状況及び今後の奥羽新幹線の実現を見据えた同県の高速度鉄道幹線網整備の取組等について調査し、府の高速度鉄道の整備促進に向けた施策の参考とする。

【調査内容】

山形新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づかない新在直通方式（ミニ新幹線）として、平成4年7月に福島～山形間が開業し、平成11年12月に新庄まで延伸した。また、開業に伴う事業費は、福島～山形間については、新幹線と同様の標準軌レールの敷設や在来線幅の新型車両の開発、導入などに520億円、新庄延伸時には343億円となっている。

同新幹線の開業により、東京～山形間が最短2時間27分となり、従来から42分短縮、新庄までの延伸により最短3時間5分となり、大幅な時間短縮が図られた。なお、JR在来線区間については、時速130キロメートルが最高速度の上限とのことであった。

また、新庄延伸時には、利用促進を図るため、全国初の本格的パーク&ライド方式として、沿線各駅の周辺に大規模な無料駐車場（沿線合計3,000台）の整備や、延伸地域における駅舎の改築や駅の周辺整備の開発、観光地までのアクセス整備などの取組をされたとのことであった。

現在、各地で新幹線整備が進展し、首都圏からの所要時間の優位性が低下しており、また、雨・雪・風等の自然条件や、野生動物との衝突等の影響により、運休・遅延が多発し、フル規格新幹線と比べ定時性・安定性に大きな課題があるとのことであった。このため、山形県では、山形新幹線の防災対策として、現在課題となっている峠について、将来、フル規格新幹線による高速走行が可能となる仕様でトンネルを先行整備することで早期にフル規格化につながるようJR東日本に働きかけるなど取組を展開されているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・沿線自治体（県以外）の事業費負担金について
- ・国土強靱化を踏まえたダブルルートの大きな柱としての山形新幹線等の位置づけについて
- ・並行在来線問題について
- ・現時点での効果に対する評価、定住人口に対する分析等について
- ・停車駅設置における課題等について
- ・今後の取組と近隣県との連携について など



調査事項を聴取

○女川町役場〔於：女川町まちなか交流館〕（宮城県牡鹿郡女川町）

【調査事項】

コンパクトな市街地形成の推進について

【調査目的】

東日本大震災を踏まえ、安全な高台へ住宅地を整備し、JR女川駅を中心とする「にぎわい拠点」に公共施設や商業・観光施設などを集めた、同町のコンパクトな市街地形成の取組状況について調査し、府のまちづくり事業の推進に向けた施策の参考とする。



調査事項を聴取

【調査内容】

女川町は、東日本大震災において津波に襲われ、犠牲者・行方不明者827名（犠牲率8.3%）となっている（令和元年11月現在）。津波は、建物5階の高さまで襲来し、住家の89.2%が被災し、同震災における被災率最大の自治体となった。また、平成以降、毎年200人前後の人口減少であったが、被災後約8年で約3,500人減と、震災時の人口の約35%減となり、人口減少率は、全国1,741市区町村中で最も高くなっている。

同町では、「女川町復興計画」（計画期間は平成31年3月に終了）に基づき、復興を進め、災害公営住宅、自主再建を含めて住居の再建はほぼすべて完了している。

同町にとっての復興とは、その道のりを通じて地方の新しい価値や可能性を生み出すことで、未来に向けてどのように立ち上がるかが大きなテーマとなっており、行政だけではこれからの公共は担えないとの思いから、同じビジョンに向けて、公民が連携してそれぞれの果たすべき得意な役割を担うことで、持続可能な地域経営を実現することに取り組まれた。平成26年12月に認定された「女川町まちなか再生計画」により、高台住宅、公共施設、事業者、駐車場などを戦略的に配置するコンパクトで利便性の高い中心市街地を形成し、また、エリアの変容性、流動性を確保するため土地と建物の所有と利用を分離、さらに民間主導・公民連携による街区運営などのまちづくりを進めている。

今後は、本年4月に策定した10カ年を計画期間とした町の総合計画に基づき、公民連携のもと、地方の新しい価値や可能性を生み出すまちづくりを進めていかれるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・新旧まちづくりにおける相違点及び残存部分について
- ・復興に当たっての所有者不明土地等に対する取組について
- ・住民の合意形成過程について
- ・道路協力団体制度について
- ・今後の整備及び財源について
- ・旧商店事業者のシーパルピアへの優先入居及び入居待機者について など



女川駅前商業エリアを視察

○東日本旅客鉄道株式会社仙台支社〔於：柳津駅〕（宮城県登米市）

【調査事項】

バス高速輸送システム（BRT）の運用について

【調査目的】

地域交通を守り、早期に安全で利便性の高い輸送サービスを提供し地域の復興に貢献していくことを目指して、同社が導入した「BRTによる仮復旧」の取組状況等について調査し、府の地域公共交通の活性化のための取組の参考とする。



調査事項を聴取

【調査内容】

JR気仙沼線・大船渡線は、東日本大震災により、線路の34～35%が流失するという甚大な被害が生じた。復旧に当たっては、100年に一度の津波に対する安全確保困難区域が存在すること、まちづくりに伴うかさ上げ後の復旧になること、「安全・まちづくり」を考慮した復旧費の掛かり増し分の負担が生じるといった課題があり、鉄道復旧に相当の期間を要することから、東日本旅客鉄道株式会社では沿線自治体に対し、バス高速輸送システム（BRT）による仮復旧を提案された。

震災前の鉄道敷をBRT専用道化するとともに、専用道整備中の区間については一般道を運行することで、早期復旧が可能となり、気仙沼線では、2012年8月からの暫定運行を経て同年12月から運行を開始している。なお、運賃はJR鉄道線と同水準で設定されており、運行は地域の路線バス事業者に委託している。

BRTによる復旧は、まちづくりに合わせたルート設定や駅の増設等柔軟な対応を行うことができるとともに、専用道整備による速達性及び定時性が確保できるなどの特長があり、気仙沼線では専用道が77%整備されており、将来は約9割で整備される計画となっている。

さらに、運転本数が鉄道時代の約1.5～3倍に増強され、学生の利用に合わせて増便を図るなど、利便性が向上しているが、利用状況は鉄道時代に比べ、気仙沼線では約3割、大船渡線では約6割で推移している。

なお、JR東日本仙台支社管内の仙石線や常磐線の被災箇所では、高台への移設など、自治体の協力により、地元のまちづくりに合わせてルート変更されたとのことであった。

※BRT：バス・ラピッド・トランジット（Bus Rapid Transit）の略

【主な質問事項】

- ・鉄道での復旧に対する事業費比較について
- ・利用者の増減及び採算について
- ・橋梁部の架け替えについて
- ・バス運転者の確保問題について
- ・専用道整備に係る沿線自治体負担について
- ・車両保有台数及び運行速度について など



柳津駅を視察

○東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター（宮城県仙台市）

【調査事項】

社会資本整備・維持管理に係る研究開発について

【調査目的】

東北地方のインフラを守り、我が国のインフラの維持管理技術を大きく発展させるために、自治体支援・関連する研究や技術開発・技術者の育成を推進する、同センターの取組等について調査し、府のインフラの維持管理・更新に向けた取組の参考とする。

【調査内容】

同センターは、インフラの老朽化と防災・減災への対応を推進するため、2014年に設置された。

2016年には、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）事業（インフラ部門）の地域拠点グループとして国土交通省東北地方整備局をはじめ、地方自治体、関係法人など各機関との連携協定を締結し、産学連携拠点となる「東北インフラ・マネジメント・プラットフォーム」を構築。喫緊の課題であるインフラ老朽化対策として、情報のデータベース化や一元管理で効率的かつ高度なインフラメンテナンス対策に取り組んでいる。

本事業では、同センターが核となり、従来の建設、土木事業者だけでなく、IT技術者が参画し、山形県、宮城県、仙台市でインフラメンテナンス統合データベースを導入し、インフラデータを一元化することで、人員不足をカバーするとともに、インフラ維持管理の情報基盤を整備された。

山形県の事例では、自治体が委託費としてデータベースの運用母体（山形県建設技術センター）に支払い、これを原資として運営母体と同センターとの共同研究を実施し、その成果を地方自治体に提供され、業務効率化、高度化を図るW i n - W i nの持続可能なスキームとなっている。

また、同センターの研究開発から2019年3月に設立されたベンチャー会社では、インフラの維持管理データベースにA I技術を組み合わせ、地方自治体等のインフラ管理者における点検診断・補修設計業務の効率化を支援するとともに、長期的・継続的に市町村の業務をサポートされているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・補修技術の研究開発について
- ・工事台帳のデータベース化について
- ・建設投資の確保について・都市再生整備事業実施に係る地元住民の反応について
- ・維持管理及び補修の今後の方向性について
など



調査事項を聴取

Ⅱ 委員会の活動のまとめ

5月臨時会の委員会（令和2年5月25日開催）において、新型コロナウイルス感染症対策として、1年間の「委員会活動のまとめ」の議事が設けられなかったため、希望する委員から書面により提出がされた。

以下、その内容を委員名簿順に記載した。

○園崎 弘道 委員長

昨年の5月に委員長に選任していただいて以来、中島、小原両副委員長をはじめ、委員の皆様方には格段の御協力を頂きまして、心から感謝を申し上げます。また、藤森危機管理監、壺内危機管理部長、富山建設交通部長をはじめ、理事者の皆様方におかれましても大変お世話になりまして本当にありがとうございました。

私は常任委員長になるのが初めての経験で、不慣れなところもございましたが、皆さんのおかげでこの委員長の責務も無事に果たすことが出来、本当にありがたく思っております。

昨年は常任・特別委員会とも新たに委員会が設置され、本委員会では危機管理部と建設交通部が所管する事項について調査や審査を行ってまいりました。

昨年は幸いにも大きな自然災害にはさいなまれませんでした。一昨年には大雨や台風などで大きな被害が発生したところです。昨年8月の管内調査では、被災からの復旧状況を中心に調査を行ってまいりましたが、災害復旧に当たり現場で御奮闘頂いている危機管理部、建設交通部の皆様方に対しまして改めて敬意を表す次第です。

また、現在もなお日本全国に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症への対応では、対策本部の事務局を務められている危機管理部を中心に、日夜懸命に御対応頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

この1年間の委員会運営を通じて、府民の安心・安全を守るために、この委員会が果たす役割が非常に大きいと痛感いたしましたし、より活発な議論を重ね、今後も、新たな時代を見据えていく必要性を感じました。

理事者の皆様方におかれましては、本委員会において各委員から出されました御意見、御要望につきまして、今後の府政運営に向け積極的に御検討頂き、なお一層の御尽力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員並びに理事者の皆様方におかれましては、御健康に留意され、今後ますます御活躍されることを御祈念いたしまして、私のまとめとさせていただきます。本当にありがとうございました。

○中島 武文 副委員長

園崎弘道委員長、小原副委員長をはじめ、委員の皆様方、理事者の皆様、そして事務局の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

初めて副委員長として委員会運営に携わらせていただき、ご迷惑をおかけしたところもあったかと思いますが、皆様方と委員会活動を通じて、所管の分野について理解を深められ大変勉強になりました。

管外調査では、山形県議会での高速鉄道幹線網の整備に向けた取組について視察させていただいた。山形新幹線では、利用促進を図るためにパークアンドライド方式として無料駐車場の整備をされるなどされており、フル規格新幹線と比べると課題はあるものの、一定の効果が表れているとお聞きした。また、その際に全国新幹線鉄道整備法に基づいた計画路線も学んだが、京都府北部については全く計画されておらず、空白地帯になっていることを改めて認識した。山陰新幹線を府北部に計画してもらえるよう、しっかり要望していかなければならないと決意を新たにできたことが良かった。府におかれても引き続き山陰新幹線の取組を後押ししていただくようお願いしたい。

管内調査では、災害復旧の状況を確認するために丹後管内を視察させていただいた。平成30年度の7月豪雨で甚大な被害に遭った京都丹後鉄道や国道178号（宮津市日置地区）、伊根町の筒川を視察でき、迅速に災害復旧工事が進んでいることに心強く感じた。国道178号については、より強靱化していくためにしっかりと今後の事業転換を見守っていききたい。府におかれても、災害復旧、国土強靱化の取組を力強く推し進めていただくようお願いしたい。

また、京都丹後鉄道については、WILLER株式会社の村瀬氏に参考人として委員会にお越しいただき、MaaS導入に向けた新モビリティサービスの推進について御説明いただいた。京都丹後鉄道の取組はもとより、シンガポールでの自動運転バスについての取組もお伺いし、遠くない未来に自動運転の社会が来ることを実感した。私自身は、まずは京都丹後鉄道のMaaSの取組が成功するよう応援していきたい。

そして、災害という面においては、京都大学防災研究所の矢守教授にお越しいただき、住民の避難行動について御説明いただいた。避難について大切なことは、各自「避難スイッチ」を持っていることや「セカンドベストの避難場所」を持つておくことだとおっしゃられており、大変共感できた。遠くの避難所へ逃げることでできない高齢者の方々は家の2階に避難するなど、住民それぞれの避難先をしっかりと考えることが大切だと感じた。府におかれても、地域に合わせた避難方法を見つけていく手助けをしっかりと行っていただくようお願いしたい。

いずれにいたしましても、この1年間の委員会活動の中で、大変大きな学びがありました。府政の発展に寄与できるよう頑張ってまいりますので、また今後ともどうぞよろしく願いいたします。大変お世話になり、ありがとうございました。

○小原 舞 副委員長

この1年間、園崎委員長、中島副委員長をはじめとして、委員の皆様、そして理事者の皆様、職員の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。

危機管理・建設交通常任委員会として、管外・管内調査や参考人からの重要課題調査のための委員会等を通して、特に一昨年度の大雨等による被災からの復旧状況を確認し、今後の防災・減災についての取組を進める等、有意義な委員会活動となりました。また、新型コロナウイルス感染症の対応につきましては、関係各位の皆様の御対応に感謝申し上げます。前回は、環境・建設交通常任委員会に所属し、今回も引き続き、建設交通に関わることになりましたが、災害が頻発した経緯もあり、道路、河川等の維持管理と危機管理が連動する体制の下で現状把握と提言が行われたのではないかと考えています。

管内調査では、平成30年7月豪雨災害において土石流が発生した舞鶴市の上福井地区において、災害関連緊急砂防事業として砂防えん堤等の整備の復旧工事を視察した。当時は、21世帯52人の長期にわたる避難指示が発令中であり、「自宅に早く戻りたい」、「子供の学校の関係で転校しないで済むように避難先を配慮してほしい」等という切実なお声をいただいていたため、復旧工事が進んでいる現場を見て、日々の生活の安心・安全に直結する整備工事の重要性が感じられた。

管外調査では、岡山県の7月豪雨災害における対策の検証、住民の避難対策や県の防災体制の強化等についての事例や大規模に氾濫した河川の緊急対策工事の状況を視察し、尊い命を守るためには、不断の検証と災害を忘れないために住民を巻き込んだ取組、減災・防災工事の推進等、ソフトとハードが連動した施策の推進の重要性が学べた。

重要課題調査のための委員会においては、人口減少、少子高齢化が進展している昨今、個人的に、公共交通の今後のあり方について関心を持っているため、WILLER株式会社 代表取締役 村瀬茂高氏の「地域交通のイノベーション～Ma a S導入に向けた新モビリティサービスの推進について」の説明は、大変興味深いものであった。特に、京都北部地域のように、中山間地域などの交通空白地では、高齢者が買い物や通院ができなくなるという不安の声が多くあり、バスの便数が少なくて不便、タクシーは中山間地ほど街なかから距離が遠く高額になる現状がある。

地方都市における「移動」の不便さの解消というテーマに取り組みたく、自身も地元でできる限り自動車を使わず、徒歩、自転車、バス、電車、そして最後に自家用車とするように心がけている。実際に公共交通を利用してみることで、利便性を高めるためにどうすれば良いかと考える上で、Ma a S導入の事例を調べていたりしていたが、Ma a Sの定義を調べても、非常に分かりにくい。国交省によると「出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念」ということだが、村瀬参考人のMa a Sとは、「マイカーがなくても、ストレスなく移動できる状況をつくる」という説明は大変、分かりやすいものであった。今後、WILLER株式会社が「公共交通とオンデマンド、京都丹後鉄道や丹海バス、全但バスの合間を埋めるオンデマンドバスを最終的に形にして、物理的な空間や時間、経済的な空白という物をなくすことができればと思っている。」というチャレンジについて、今後の展開に関心を持ってみたい。また、舞鶴市では、日本初となる住民同士の送迎とバス・タクシーなどの公共交通機関を組み合わせたMa a Sの実証実験が行われている。持続可能な社会をつくるための取組として、地方の強みとしての、「支え合い」「繋がり」そして「共生」というキーワードが今後ますます重要になっているように思われる。京都府における取組が、地方都市が抱える課題の解決につながるよう、今後とも公共交通のあり方について研究していきたい。

3月からは、危機管理部を中心に、新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況の報告を聴取し、取組の検証を行いつつ、どのような影響が出ているのか確認した。国の専門家会議の提言にて「新しい生活様式」に切り替えるよう求められているが、危機管理の在り方も常に見直し、現状に合わせて検証する必要がある。

○池田 正義 委員

この1年間、園崎委員長、中島副委員長、小原副委員長には大変お世話になり、ありがとうございました。また、理事者の皆様にも大変お世話になり、危機管理・建設交通行政の推進に御尽力頂き、京都府政の進展に大きなお力添えを頂き、心から感謝申し上げます。

印象に残っているのは、参考人招致では、京都丹後鉄道沿線地域での地方郊外型WILLERS Ma a S事業におけるQRシステム導入実証試験や相楽東部地域公共交通再編事業です。アプリを利用して車両や駅にQRコードの読み取り機を設置して、これまでお金を出して切符を買うという作業が1つのアプリで統一される。さらに、オンデマンドのシェアバスの検討など、ぜひ、実証実験を続けていただき、新たな交通システムの構築にこれからも御尽力いただきたい。

JR西日本の山陰線や舞鶴線、すなわち園部北部でいえば、綾部駅、福知山駅、西舞鶴駅、東舞鶴駅など、福知山線、播但線など北近畿エリアでのICカード（ICOCAなど）が来年、2021年度春から使用可能となるよう働きかけていただき、実現が目の前に来ています。公共交通網がICカードでつながり、さらに観光振興や利用促進につながるものと確信しています。

昨年度の7月豪雨災害や台風災害への復旧事業につきましても、職員の皆様の英知を結集され鋭意工事を進めていただき、府下全域おおむね工事が完了しているのではないかと思います。まだ、地権者不明などにより残っているところがありましたら、着手に向けて御尽力賜りますよう、よろしく願いいたします。

地元のことになりますが、昨年7月の豪雨により、土石流が発生した大島川地区では、二次災害を防止するため、舞鶴市では避難指示が発令され、住民の皆さんが他の地域に避難をされ不自由な生活を送っておられました。砂防堰堤を早期に工事していただき、昨年の年末に完了していただき、新しい令和2年の新春を自宅で迎えることができました。もちろん、残っております、山の上の治山工事の方も今年度着手していただきます。よろしく願いいたします。

災害に関連して、水害等避難行動タイムラインを作ろうということで、地域住民によるワークショップを開催していただき、私もその様子を伺っているなかで、地元の高野川下流部の地域でしたが、台風や豪雨時に畳を2階にあげるとともに、自らも2階に待機し、水が引くのを待ち続けておられる。そして、その水が引き始めるとともに、泥などをかき出すことを、長年の災害時の経験をもとにされている。これを聞いたときに、避難をするときの行動の在り方は、それぞれ地域によって異なることを感じました。当然、それぞれ避難所へ避難するだけでなく、付近の親戚や、友人の家。もちろん、土砂災害等の指定があれば別ですが、事前に、避難する時期、タイミング等をしっかりと、自分の町内等で作っておくことが、命を守ることにつながるのだと思いました。

また、京都舞鶴港についてですが、次なる課題は国際埠頭の2期工事に向けた取組や第2ふ頭大型クルーズ船への対応のための岸壁延伸、港湾道路の整備、これは国の事業ではありますが、西舞鶴道路の早期完成に向けた取組であります。国・府・市の連携のもと港の発展に欠かせないのはインフラの整備だと思います、京都舞鶴港を活かしたLNG基地誘致と舞鶴から三田までのLNGパイプラインの整備だと思います。現在、

日本海側では富山以西はパイプラインが整備されていません。京都舞鶴港は平穏な港で、浮体式のLNG基地を誘致し、パイプラインを綾部、福知山へとつなぎ、そうすることによって、中丹地域だけでも、民間投資が可能な6億リューベを上回る10億リューベのLNGが消費可能であります。現在、兵庫県と京都府で北近畿エネルギーインフラ整備検討委員会でも整備に向け検討を進めていただいておりますが、ぜひとも、原子力発電に代わる未来のエネルギーを考えるうえで、日本海側の港湾の果たす役割がますます強くなっていると考えています。

最初にも、京都丹後鉄道の話をさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、京都丹後鉄道の経営は大変と伺っています。公共鉄道として、未来に残していかなければなりません。府としても、よろしく願いいたします。

今年に入って、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な取組を行っていただいております。私からも、職員の皆様の御労苦に感謝申し上げますとともに、お礼申し上げます。京都府内では、府民の努力により新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言は解除されましたが、第2波がいつ来るかわかりません。新しい生活様式で、さらなる新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、理事者の皆様におかれましては、諸施策の推進に御尽力賜りますことをお願い申し上げます、まとめの挨拶といたします。1年間、お世話になり、ありがとうございました。

○兎本 和久 委員

まず、園崎委員長、中島、小原両副委員長をはじめ、委員の皆様方におかれまして、委員会審査等、委員会活動においてお世話になり、ありがとうございました。また、藤森危機管理監、富山建設交通部長をはじめ、理事者の皆様におかれましては、この間、委員会活動全般にわたり、格別の御協力をいただき、ありがとうございました。

また、議会事務局の皆様も、委員会運営に御協力をいただき、ありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

さて、この危機管理・建設交通常任委員会では、危機管理部が設置され、初めての建設交通部との常任委員会でもあり、学ぶことが多く、持続可能な社会づくりに、今後ますます取り組んでいきたいと思いました。

また、多発する災害に対応できる住民の避難行動についても、再度、考え直さなければならぬことが重要課題と思われ、各河川、各橋梁、道路網、鉄道網等を含め、二次交通といったインフラ整備、生活に必要なパイプラインのインフラ整備等の必要性を感じました。

また、本年度に入り、新型コロナウイルス感染拡大防止に、危機管理部の担当部としての役割も関係し、その重要性が増すと思えますし、まだまだ委員会で議論をしていかなければならないと思えます。

また、まだまだ調査すべき課題は残っておりますが、理事者の皆様方におかれましては、本委員会において各委員から出された御意見、御要望について、積極的に御検討いただき、今後の府政運営に向けた取組の推進のため、より一層の御尽力をお願いいたします。

また、皆様方におかれましては、御健康に留意され、今後ますます御活躍されること

を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

○荻原 豊久 委員

まずは、この1年を通じて、委員会運営に御尽力頂きました、正副委員長各位に対しまして、ここに改めて厚くお礼申し上げます。

また、理事者各位並びに参考人の方々に対しましても、大変多くのことを御教示頂き、重ねてお礼申し上げます。

さて、危機管理部の所管においては、まさしく京都府だけでなく我が国を取り巻く状況が、危機管理のモードに突入しており、度重なる豪雨災害や地震等の対応に対しまして、終始、府民の安心・安全を第一に日々御尽力頂いており、改めて深謝いたします。そして、今後は被災後の対応はもちろんの事、防災、減災への対応へと、その守備範囲は広がりを見せる中、今回の新型コロナウイルスの対応においては、誰もが経験した事のない事態を迎え、あらゆる世の中の仕組みの再構築が迫られております。今後とも府民の安心・安全のために、危機管理部がそのかじ取り役を担い、各機関との連携を図って、取り組んでいただく事を切に熱望いたします。

また、建設交通部の所管におきましては、限られた予算の中、近年は災害対応と日々のインフラ整備とは表裏一体となっております。私自身、これまで宇治市内でのもの見方を中心に捉まえておりましたが、南北に長い京都府域の均衡ある発展は、まさしく日本全体の縮図ではないかと実感したところであります。特に、北部地域は南部とは違い、その課題は山積しており、インフラ整備だけでなく、人口動態を含めあらゆる分野においても、喫緊の取組が求められております。地方財政は、本府だけではなく、非常に厳しい状況であります。国や市町村と連携を図りながら、将来への投資的経費も視野に入れ、引き続き御尽力いただきたいと存じます。

結びにあたり、委員会の補佐役として、御協力いただきました議会事務局の方々をはじめ、職員の皆様にもお礼を申し上げ、今後とも御指導の程お願いし、まとめとさせていただきます。

○森下 由美 委員

この1年間、正副委員長をはじめ、各委員の皆さん、理事者の皆さん、そして事務局の皆さんには、大変お世話になり、ありがとうございました。

危機管理・建設交通常任委員会における委員会審査、管内外調査で議論を深め、多くのことを学ぶことができました。

私は、「住民のいのちを守り、安心安全なまちづくり」を目指して、頑張ってきました。とりわけ、自然災害が多い今日、現地の実態を把握すること、一刻も早く住民が安心できる対策を講じることを求め奮闘してきました。議会においては、住民の利益を優先する立場で意見、提案をしてきました。

京都府において、この1年は、大きな災害に見舞われることがなかったことが幸いでしたが、全国的には、かつてない豪雨災害、河川の決壊や広域における浸水被害が発生し、甚大な被害をもたらしました。改めて、災害に対応できる避難の在り方が問われま

した。京都大学防災研究所の矢守克也氏のお話は大変参考になりました。避難所の在り方、避難訓練については、今日コロナ感染症予防対策の課題もあり、まだまだ研修と改善、充実のための予算化が必要と考えます。

さらに今後、豪雨による河川の氾濫や山崩れなど災害の防止対策の予算を増額し、計画的に対策を推進していただきたいと思います。同時に土木事務所等の技術職員をはじめ職員体制を計画的に増員することをさらに求めたいと思います。

管外調査で宮城県の女川町における、東日本大震災からの復興計画まちづくり事業について視察をしました。ここでお話を聞き、現地を見て心から感動しました。公民連携のもと、何度も何度も住民と懇談を重ね、特に若者の意見を聞く姿勢を貫き、「女川町まちなか再生計画」により、まちづくりが進められていました。行政主導型でなく、住民が本気でまちをどうしていくのか、未来に向けて、若者が主になってまちづくり計画に参加することで再生へと動き出せる。そのことを大事にした首長の姿勢がとても大切だと、印象に残りました。大変参考になりました。

まちづくりで大変懸念材料になっているのが、環境破壊をもたらし、地元自治体に過大な負担を強いる北陸新幹線延伸計画や、新名神高速道路の延伸、6車線化と周辺地域の大型開発が進められていることです。今、新型コロナウイルスの影響で経済が疲弊しています。こんなときに不要不急の大型開発は進めるべきではないと思います。中止することを国に求めていただきたいと思います。切に思います。

○水谷 修 委員

1年間、正副委員長、各委員、理事者の方々には、大変お世話になり、ありがとうございました。

危機管理・建設交通常任委員会として現場調査も含め、府民の安心・安全のための論議ができたと思っています。また、相次ぐ災害の復旧に取り組んできた1年でもありました。

私は、本委員会においても、府民の立場で府政をチェックし、府民の声を府政に届ける仕事をさせていただきました。また、災害対応・復旧工事と通常業務が重なり、現場は大変な努力をされていると感じました。技術職員の増員も含めて現場の体制を強化していただきたいと思います。

河川事業費（通常分）は平成17年の約133億円に対し、平成29年度は約37億円と約28%まで落ち込んでいます。そうしたもとの、平成30年7月豪雨では床上浸水539戸、床下浸水1,734戸という被害が発生しました。河川整備費の大幅増額を求めるものです。

危険な大戸川ダム建設計画は、4府県知事の合意をしっかりと堅持していただき、建設に舵を切らないことを求めます。また、木津川・桂川・宇治川、三川合流点や堤防の安全のために、上流のダムの利水枠を活用した事前放流へ操作見直し、堤防強化など河川行政の強化を願います。また、府内各地の内水氾濫を防ぐために、遊水地など湛水力の増強や河道拡幅、流域の森林保全など総合治水の整備計画の策定と整備を求めるものです。

新名神開通に合わせた、6車線化と隊列走行専用物流拠点、アウトレット、木津川運

動公園拡張など城陽市東部丘陵開発が加速され、多額の事業費が投じられようとしています。これはかつての産廃不法投棄や不法開発を追認するものであり、下流の内水氾濫常襲地域の水害や交通公害などが起こらないよう抜本的対策を講じるべきです。舞鶴港開発は国際埠頭2期工事に着手しようとしています。開発のための開発とならぬよう、地元発展・経済への効果を十分検証し計画の改善を求めます。さらに、地球環境を壊し、周辺住民への重大な被害をもたらす、港湾用地でのパーム油発電所建設は中止すべきです。コロナ危機からの脱却のため、公共工事進捗による下支えは重要ですが、大型事業推進から生活関連公共事業への転換で地元経済を応援することを求めます。

指定管理者制度を府内全府営住宅に広げることとしていますが、「住まいのセーフティネット」としての府営住宅の役割を歪め、国の動きと一体に大手企業の利益を優先する姿勢であり、これは見直すべきです。

コロナ感染による経済悪化から府民の暮らしを守り、命を守る対策へ、長期化が想定されるもとで、危機管理体制のさらなる強化と必要な財源確保への御努力を当局に求めます。

○平井 齊己 委員

今年度は危機管理・建設交通常任委員会に所属して、多くのことを学ばせていただきました。

委員会運営については、園崎委員長、中島副委員長、小原副委員長、他の委員の皆さん、理事者の皆さん、委員会運営の補助を頂いた議会事務局の皆さん、大変お世話になりました。

委員会の管内外調査では、2019年7月に、岡山県での豪雨災害の災害検証の取組を調査しました。この災害では多くの方が犠牲になられ、家屋被害も広範囲に渡り、被害に遭われた方々の避難生活も長期になるなど大きな災害でした。

岡山県では災害時の初動対応を検証、被災世帯を対象にした住民意識調査を通じて今後実施すべき取組などを提言にまとめられました。岡山県では、この提言を受けて、初動体制の強化、市町村支援の強化、河川管理・地域防災強化に取り組まれました。特に災害時には、地域の横のつながりが重要であることから、自主防災リーダー研修をはじめとする地域防災の強化が進められています。

また、国営海の中道海浜公園事務所では、都市公園の整備・管理をPFI事業を活用して、国直営の公園管理と民間活力を導入した水族館運営との連携によってサービス水準を向上する取組により、利用者増加に繋がる事業が取り組まれていました。特に、PFI事業による民間運営会社が、海洋生態科学館（マリンワールド）や宿泊施設等（ホテル・マリーナ・テニスコート）を一体的に運営することで、教育機関などには低廉な利用料、家族などのグループにも利用しやすい利用料を企画をするなど国営公園で初めての民間会社運営の効果の取組を調査しました。

そして、同年11月には、高速鉄道網整備の取組として山形新幹線整備と地域活性化につながる鉄道網整備の取組、東日本大震災の津波による被害を受けての復興まちづくりとして、宮城県女川町の復興整備と被災した旧商店街の再整備事業を調査しました。さらに、東日本大震災で大きな被害を受けた鉄道網の整備として、JR東日本が取り組

まれている鉄道敷地を活用してバス専用レーンの整備による鉄道とバス連携による新たな地域交通システムについても調査しました。

管内調査では、新名神関連の開発などによる汚水量増加に対応するための府立洛南浄化センター増設の取組、国営天ヶ瀬ダムの豪雨災害を踏まえた治水利水機能強化のため、既存ダムのトンネル式放水路建設の取組も調査しました。その他、亀岡市の桂川橋梁架替事業、北近畿タンゴ鉄道（KTR）の災害復旧事業、舞鶴市・福知山市の砂防事業整備なども調査しました。

また、重要課題調査のための委員会では、地域交通イノベーション地域モビリティサービスとして、山間地域や公共交通空白地でのIoTなどを活用した新交通システムを自治体と民間企業との連携によるMaas（モビリティ・アズ・ア・サービス）事業の活用による交通弱者支援の取組。多発する災害に対応できる住民の避難行動を円滑に進めるための避難行動タイムライン作成と活用などによる主体的な避難実践について、先進事例を参考にした枠組みと住民意識向上の取組。建設産業における女性の働き方改革として、現場で活躍する女性、さらには女性の雇用とキャリア形成などの取組なども調査しました。

定例会中の常任委員会では、報告事項の聴取、提案議案の審議を行いますが、特に後半の新型コロナウイルス対策が主要な課題となってから、危機管理や府民の生活保障の在り方が大きな問題になりました。

新型コロナウイルス対策は、まだ経過途中でもありますが、しっかり検証をした上で、今後起こりうる危機管理と災害対策、復興整備についても引き続き議論していく必要性を感じました。

○村井 弘 委員

園崎委員長をはじめ両副委員長、委員の皆様にはお世話になりました。

コロナウイルス感染症の広がりを経験し、改めて複合災害対策の必要性を強く感じます。南海沖大地震への備えが言われたしてから、実際には大雨による洪水対策が課題となっていた京都府であります。その中で、府や市町村は原子力災害と地震、または大雨などの複合災害を想定し、防災訓練などを積み上げて来られました。そこに、予想もしないコロナウイルス感染症の流行が起り、出水期を迎えるにあたり、洪水対策との複合災害対策が喫緊の課題となってきました。避難の在り方、避難所運営にも支援を行い、いまできる最善の方法で、府民の生命を守って欲しいと願います。さらに、感染症が前提の複合災害を想定した避難計画、それに基づく避難訓練の実施、積み上げをしていただくことを強く要望します。

三川合流部を持つ府域南部にとって、桂川、木津川、宇治川の計画通りの洪水対策が急がれます。天ヶ瀬ダムの再開発は、これ以上遅れることなく完成させてほしいと願います。この事は、国に対して強く要望してください。これをもって淀川水系の河川整備は大きく前進し、本府の技術検討では、過去のすべての洪水パターンに対応できる能力を持つことになるのですが、近年の雨の降り方は、それを越える可能性が高まってきました。さらなる安全のため、大戸川ダムの役割については、再開発完成後に検討されるべきもの、とのことですので、その準備をお願いします。京都府にとって必要となるな

らば、迷わずダム建設に投資してください。身近で発生を繰り返す内水氾濫については、市町村と協力の下、地域事情を考慮し着実に進めてください。

府立宇治公園（通称塔の島）の横で行われる鵜飼いは大切な観光資源でありますので、宇治川は洪水対策と並行して、流速の調整ができるように整備をお願いします。

府道に関しては、拡幅や歩道の整備が、僅かずつであっても進んでいることが実感できます。バリアフリー化や人、自転車、車が安全に並行して通行できるよう、用地取得など時間がかかるところもあると思いますが、今後も着実に進めてください。

JR奈良線の複線化は目に見えて進んでいます。駅舎や踏切なども整備されてきており、関係者の努力に感謝申し上げるとともに、予定通りの完成により、南部活性化に大きく寄与することを期待します。さらなる複線化を進める事も検討していただきたいと思っております。理事者の皆様には京都府発展のため御健闘を期待します。

○上倉 淑敬 委員

1年間、園崎委員長、中島副委員長、小原副委員長をはじめ、委員の皆様、理事者の皆様と職員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。充実した委員会活動ができましたことに、改めて感謝申し上げます。

新たな任期を迎えた最初の年に、災害が多く発生している昨今、何よりも大切な府民の皆様の生命を守り、安心・安全な京都府として発展をしていくためには、この委員会に所属できて良かったと感じています。昨年までに京都府で発生した多くの災害からの復興は、まだ道半ばではありますが、日々前進をしていただいていることを実感することができました。大変心強く思いますし、これからもさらに尽くしていただけるようお願い申し上げます。災害からの復興では、管外調査で東日本大震災からの復興の現場で調査させていただきましたが、8年が経過しても、まだまだ復興・復旧には時間がかかることを実感しました。また、多くの希望を持って力を尽くしている方々がいました。京都府の災害は規模が違ってもかもしれませんが、被災された方々にとっては大きな災害であることは変わりません。これからも、地元の声に寄り添って復興・復旧に尽くしていただけることを期待いたしております。

また、災害復興以外でも、インフラの整備は本当に大切ですが、お金と時間がかかることも改めて感じました。昨年10月に新たに策定されました京都府総合計画「京都夢実現プラン」に沿いながら、特に、災害時のリダンダンシーの確保を図っていただけることを期待いたしております。

そして、何よりも現在も対応が続いています「新型コロナウイルス」の感染拡大と、その対応について申し上げておきたいと思っております。

まずは、感染によりお亡くなりになられました方々へお悔やみを申し上げます。また、現在も闘病されておられます方々の回復を心よりお祈り申し上げます。

また、本府職員の皆様をはじめ、医療関係者の皆様、多くの対応に当たっていただいている皆様の御尽力により、感染拡大を防ぎつつあることに心から感謝を致しております。

本委員会では、危機管理部の皆様からお話しをお伺いすることもできましたが、何よりも迅速な対応と情報の公開が大切であると実感いたします。不確かな情報が一番恐

怖をあまり、過度な行為に導いてしまいます。迅速な対応と情報公開の徹底を重ねてお願いしておきたいと思います。

最後に、これからは「新型コロナウイルス」と共存をしつつ、社会経済活動を回復していかなければなりません。特に、京都府では観光業は大きな打撃を受け、当分インバウンドは見込めません。飲食業も壊滅的な打撃を受けています。本府でも様々な支援のメニューを用意し、補正予算を編成していただきましたことに感謝を申し上げますが、御承知のように十分ではありません。財源には限りがあることを理解していますが、今は大きな決断をしていただき、さらなる支援をお願いいたしまして、委員会活動のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

附 參考資料

府民生活・厚生常任委員会 管内外調査等実施状況

1 管内調査

年度	年月日	調査先及び調査事項
28	28. 7. 21	○平成28年夏の交通事故防止府民運動スタート式 (行催事等委員会調査)
	28. 7. 22	○いきいきオアシス日吉 ・地域福祉を支える複合施設の概要について ・施設視察 ○南丹広域振興局亀岡総合庁舎 ・まちの公共員による地域問題解決のための取組について ○きょうと婚活応援センター ・きょうと婚活応援センターの取組について ・施設視察
	28. 7. 23	○ナショナルトレーニングセンター開所式 (行催事等委員会調査)
	28. 8. 22	○きょうと子育てピアサポートセンター開所式 (行催事等委員会調査)
	28. 8. 26	○京都ウィメンズベース開所式(行催事等委員会調査)
	28. 9. 2	○第65回京都府社会福祉大会(行催事等委員会調査)
	28. 11. 22	○京都府少子化対策府民会議設立総会・設立記念講演及び第10回 京都府子育て支援表彰式(行催事等委員会調査)
	28. 12. 21	○年末の交通事故防止府民運動イベント「広げよう交通安全の輪」 (行催事等委員会調査)
	29. 2. 6	○出前議会[於:京都府山城広域振興局木津総合庁舎] ・子育てを応援する地域づくりについて
	29. 3. 11	○第28回全国車いす駅伝競走大会 開会式 (行催事等委員会調査)
	29. 3. 12	○第28回全国車いす駅伝競走大会 出発式、スタート、閉会式 (行催事等委員会調査)
	29. 4. 6	○平成29年春の全国交通安全運動スタート式 (行催事等委員会調査)

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
29	29. 5. 26	○「きょうと農福連携センター」設立記念式典 (行催事等委員会調査)
	29. 7. 21	○平成29年夏の交通事故防止府民運動スタート式 (行催事等委員会調査)
	29. 9. 5	○第66回京都府社会福祉大会(行催事等委員会調査)
	29. 9. 19	○平成29年秋の全国交通安全運動スタート式 (行催事等委員会調査)
	29. 10. 7	○きょうと婚活応援センター開設2周年記念行事セカンドアニバーサリーフォーラム(行催事等委員会調査)
	29. 11. 21 ～ 22	○るんびに学園綾部こどもの里 ・施設の概要及び運営方法について ・施設視察 ○リフレかやの里 ・農福連携の取組について ・現地視察(農産物加工所、野田川作業所) ○宮津総合実習センター ・介護福祉人材の育成について ・施設視察 ○福知山市消防本部[於:中丹広域振興局福知山総合庁舎] ・わがまちの消防団強化・応援事業について ・現地視察(中央分団車庫)
	29. 11. 23	○京都府障害者スポーツフォーラム(行催事等委員会調査)
	29. 11. 24	○京都府少子化対策府民会議総会・第11回京都府子育て支援表彰式 (行催事等委員会調査)
	29. 11. 25	○京都府立医科大学「最先端がん治療研究施設」引渡式・感謝状贈呈式(行催事等委員会調査)
	29. 12. 4	○平成29年年末の交通事故防止府民運動プレ・イベント (行催事等委員会調査)
	29. 12. 17	○中丹東保健所新庁舎開所式(行催事等委員会調査)
	30. 3. 10	○第29回全国車いす駅伝競走大会 開会式(行催事等委員会調査)
	30. 3. 11	○第29回全国車いす駅伝競走大会 出発式、閉会式 (行催事等委員会調査)
	30. 4. 29	○京都府立青少年海洋センター(マリーンプア)リニューアルオープン記念式典(行催事等委員会調査)
	30. 5. 12	○平成30年度由良川水系総合水防演習(行催事等委員会調査)

年度	年月日	調査先及び調査事項
30	30. 7. 20	○平成30年夏の交通事故防止府民運動スタート式 (行催事等委員会調査)
	30. 9. 7	○第67回京都府社会福祉大会(行催事等委員会調査)
	30. 9. 23	○京都府立こども発達支援センター新棟竣工式 (行催事等委員会調査)
	30.10. 7	○第20回臓器移植推進国民大会(行催事等委員会調査)
	30.10. 8	○きょうと婚活応援フォーラム2018オープニングアクト・記念講演 (行催事等委員会調査)
	30.11.15	○京都府少子化対策府民会議総会・第12回京都府子育て支援表彰式 (行催事等委員会調査)
	30.11.18	○世界人権宣言70周年記念京都ヒューマンフェスタ2018 (行催事等委員会調査)
	30.11.22	○オムロンヘルスケア株式会社 ・IoTを活用した健康増進に係る公民連携事業について ○一般社団法人FMおとくに〔於:長岡京市中央生涯学習センター〕 ・地域住民による地域課題解決の取組について ・施設視察 ○地域福祉支援センター宇治小倉 ・地域に開かれた障害者の生活支援拠点について ・施設視察
	30.11.27	○平成30年年末の交通事故防止府民運動スタート式 式典 (行催事等委員会調査)
	31. 3. 9	○天皇陛下御在位三十年記念天皇盃 第30回全国車いす駅伝競走大会 開会式(行催事等委員会調査)
	31. 3.10	○天皇陛下御在位三十年記念天皇盃 第30回全国車いす駅伝競走大会 出発式、閉会式 (行催事等委員会調査)

2 管外調査

年度	年月日	調査先及び調査事項
28	28. 11. 8 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉のまちづくり研究所 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル社会の実現に向けた取組について ・施設視察(ロボットリハビリテーションセンター) ○奈義町議会 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策の取組について ・現地視察(なぎチャイルドホーム) ○岡山県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・医療情報ネットワークのシステム連携の取組について ○チャイルド・ケモ・ハウス <ul style="list-style-type: none"> ・小児がんの子どもと家族の支援について ・施設視察
	29. 1. 24 ～ 26	<ul style="list-style-type: none"> ○NAGAYA TOWER <ul style="list-style-type: none"> ・NAGAYA TOWERの取組について ・施設視察 ○鹿児島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制について ○宮崎県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・未来みやざき子育て県民運動の取組について ○大分県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年熊本地震の検証について ○美奈宜の杜 <ul style="list-style-type: none"> ・美奈宜の杜の概要について ・施設視察
29	29. 7. 11 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力防災センター <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県の原子力防災について ・施設視察 ○NPO法人りすシステム <ul style="list-style-type: none"> ・終活について①終活支援の取組について ○産経新聞出版 <ul style="list-style-type: none"> ・終活について②終活の動向について～「終活読本ソナエ」の出版を通じて～ ○カルビー株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・女性が輝く先進企業の取組について ・オフィス視察
	29. 11. 6 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉法人聖家族の家 <ul style="list-style-type: none"> ・児童心理治療施設の運営について ・施設視察 ○東松島市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災からの復興のまちづくり及び防災システムについて ・現地視察(防災備蓄倉庫、野蒜地区) ○公立大学法人福島県立医科大学 <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま子ども・女性医療支援センターの概要について ○南相馬市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災からの復興状況及び原子力災害対策について ・現地視察(災害公営住宅等)

年度	年月日	調査先及び調査事項
29	29. 11. 6 ～ 8	○社会福祉法人こころん ・農福連携の取組について ・現地視察(こころんファーム、こころん工房)
30	30. 7. 23 ～ 25 30. 11. 7 ～ 8	○静岡県議会 ・NPO 法人等と連携したひきこもり対策・居場所設置の取組について ○NPO法人静岡市里親家庭支援センター〔於:静岡市児童相談所〕 ・里親委託と特別養子縁組の取組状況について ○さいたま市議会〔於:アーバンデザインセンターみその〕 ・人工知能(AI)による情報発信等の子育て支援について ・現地視察(さいたま市美園地区) ○伊達市議会 ・高齢者社会における地域通貨を通じた共助の仕組みの構築について ○仙台市議会 ・震災時における帰宅困難者対策及び防災・減災対策について ○社会福祉法人隆生福祉会〔於:特別養護老人ホームゆめパラティース〕 ・介護職員がやりがいをもって楽しく働ける環境づくりについて ・施設視察 ○岡山市議会 ・SDGs未来都市の取組(主に健康づくり)について ・在宅介護総合特区の取組状況や成果等について ○岡山県議会 ・病児保育の広域相互利用について ・高齢ドライバーの事故防止対策について ○神戸市立神戸アイセンター病院 ・目に関する一般医療と先端医療のトータル支援について ・施設視察

環境・建設交通常任委員会 管内外調査等実施状況

1 管内調査

年度	年月日	調査先及び調査事項
28	28. 7. 19 ～20	○京都鉄道博物館 ・鉄道を基軸とした事業活動の展開について ・施設視察 ○京都丹波高原国定公園〔於：美山町自然文化村文化ホール〕 ・京都丹波高原国定公園の概要及び今後の取組について ・現地視察(かやぶきの里) ○山陰海岸ジオパーク〔於：峰山総合庁舎〕 ・山陰海岸ジオパークにおける自然の保全及び活用の取組について ・現地視察(大成古墳群等、船上視察) ○野田川大宮道路〔於：峰山総合庁舎〕 ・山陰近畿自動車道野田川大宮道路の整備状況について ・現地視察(京丹後大宮インターチェンジ等)
	28 .7. 26	○JR奈良線高速化・複線化第二期事業起工記念式典 (行催事等委員会調査)
	28 .8. 6	○都市計画道路宇治淀線開通式(行催事等委員会調査)
	28 .8. 28	○一般国道163号(北大河原バイパス)開通式(行催事等委員会調査)
	28. 11. 25	○エネルギー新時代フォーラム in 舞鶴(行催事等委員会調査)
	29 .4. 30	○新名神高速道路(城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC) 一般府道八幡京田辺インター線 開通式典(行催事等委員会調査)
	29	29. 11. 6
29. 11. 27 ～28		○防賀川〔於：山城北土木事務所〕 ・防賀川の整備状況について ・現地視察(防賀川) ○GLM株式会社 ・GLM株式会社における電気自動車の普及に向けた取組について ○商工労働観光部・建設交通部港湾局〔於：第2ふ頭旅客ターミナル〕 ・京都舞鶴港の整備状況について ・船上視察 ○高野川 ・台風21号による被害状況について ○府道38号線 ・台風21号による被害状況について ○京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林 ・「芦生の森」の生態系維持回復に向けた取組について ・現地視察(芦生の森)

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
29	29. 12. 5	○北陸新幹線(敦賀・大阪間)建設促進決起大会 (行催事等委員会調査)
	29. 12. 9	○京都環境フェスティバル2017オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	30. 3. 17	○山手幹線(府道八幡木津線)宮津・菱田工区開通式 (行催事等委員会調査)
	30. 3. 17	○赤田川河川改修 赤田川水門竣工式(行催事等委員会調査)
	30. 3. 26	○西高瀬川導水事業及び三条坊町公園竣工式 (行催事等委員会調査)
	30. 3. 28	○京都丹波高原国定公園ビジターセンター完成記念式典 (行催事等委員会調査)
	30. 5. 12	○平成30年度由良川水系総合水防演習(行催事等委員会調査)
30	30. 7. 24 ～25	○南丹広域振興局 ・平成30年7月豪雨の被災状況について(南丹管内) ・現地調査(国道423号(亀岡市法貴峠)、日吉ダム(南丹市)) ○中丹広域振興局 ・平成30年7月豪雨の被災状況について(中丹管内) ・現地調査(犀川(綾部市物部)、八田川(綾部市梅迫)、舞鶴福知山線(舞鶴市三日市)) ○丹後広域振興局 ・平成30年7月豪雨の被災状況について(丹後管内) ・現地調査(京都丹後鉄道(宮津市波路)、国道178号(宮津市日置)、竹野川(京丹後市))
	30. 10. 18	○全国道路利用者会議第68回全国大会 (行催事等委員会調査)
	30. 12. 8	○京都環境フェスティバル2018オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	31. 3. 24	○国道307号奥山田バイパス開通式 (行催事等委員会調査)

2 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
28	28. 11. 7 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○島原半島ジオパーク協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークの環境保全と活用状況について ・現地視察(雲仙岳災害記念館) ○国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所〔於：阿蘇大橋周辺〕 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震による被災及び復旧状況について ・現地視察(阿蘇大橋周辺) ○みやま市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・みやまスマートエネルギーの仕組みについて ・施設視察(みやまHEMSプロジェクト体感ショールーム) <p>〔○博多まちづくり推進協議会〔於：JR九州 博多まちづくり推進室内〕※〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博多駅周辺のまちづくりの取組について ・現地視察(JR博多駅周辺) <ul style="list-style-type: none"> ○北九州次世代エネルギーパーク <ul style="list-style-type: none"> ・響灘地区における風力発電及びLNG施設の概要について ・現地視察(風力発電NSウインドパワーひびき等) ※JR博多駅前の道路陥没事故の影響により、調査を中止
	29. 1. 24 ～ 25	<ul style="list-style-type: none"> ○香川県直島環境センター <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の処理について ・施設視察 ○広島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業の管理運営について ○コマツIoTセンタ近畿 <ul style="list-style-type: none"> ・スマートコンストラクションの概要について ・施設視察
29	29. 7. 11 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○博多まちづくり推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・博多駅周辺のまちづくりの取組について ・現地視察(JR博多駅周辺) ○福津市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・上西郷川のグリーンインフラの取組について ・現地視察(上西郷川) ○周南市役所〔於：周南市地方卸売市場内 水素学習室〕 <ul style="list-style-type: none"> ・周南市における水素利活用の取組について ・施設視察 ○広島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害死ゼロを目指す「ひろしま砂防アクションプラン2016」の概要について ・現地視察(安佐南区八木地区)

年度	年月日	調査先及び調査事項
29	29. 11. 7 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜市会 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の水道アセットマネジメントの取組について ○横浜港 大さん橋 国際客船ターミナル <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ客船寄港促進に向けた横浜港の整備について ・現地視察(新港ふ頭) ○ゆめソーラー館やまなし <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県の次世代エネルギー啓発の取組について ・施設視察 ・現地視察(米倉山太陽光発電所 展望台) ○山梨県立リニア見学センター <ul style="list-style-type: none"> ・超電導リニア及びリニア中央新幹線の概要について ・施設視察 ○神奈川県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県のエネギー自立型住宅・ビル・街の実現に向けた取組について ○木更津市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・東京湾アクアライン等を活用したまちづくりについて ○東日本高速道路株式会社関東支社 東京湾アクアライン管理事務所[於:海ほたる] <ul style="list-style-type: none"> ・東京湾アクアラインの緊急避難体制について ・現地視察(アクアライン緊急避難施設)
30	30. 8. 27 ～ 28	<ul style="list-style-type: none"> ○富山新港管理局 <ul style="list-style-type: none"> ・環日本海・アジアの交流拠点としてさらなる発展を目指す伏木富山港の取組について ・現地視察(海王丸パーク) ○北越急行株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・地方鉄道の利用拡大のための取組について ・現地視察(六日町駅周辺)
	30. 11. 5 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ○秋吉台エコミュージアム <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全・創設のための取組について ・施設視察 ・現地視察(Mine秋吉台ジオパークセンター) ○対馬市役所 <ul style="list-style-type: none"> ・海岸漂着物の現状と対策について ・現地視察(対馬市厳原町椎根周辺) ○ツシマヤマネコ野生順化ステーション <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物保全の取組について ・施設視察 ○福岡県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の減量促進と環境リサイクル産業の振興、循環型社会の構築について ○九州旅客鉄道株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・九州旅客鉄道株式会社(JR九州)の経営基盤強化の取組について

危機管理・建設交通常任委員会 管内外調査等実施状況
 (環境・建設交通常任委員会 → 危機管理・建設交通常任委員会)

1 管内調査

年度	年月日	調査先及び調査事項
28	28. 7. 19 ～ 20	○京都鉄道博物館 ・鉄道を基軸とした事業活動の展開について ・施設視察 ○京都丹波高原国定公園〔於:美山町自然文化村文化ホール〕 ・京都丹波高原国定公園の概要及び今後の取組について ・現地視察(かやぶきの里) ○山陰海岸ジオパーク〔於:峰山総合庁舎〕 ・山陰海岸ジオパークにおける自然の保全及び活用の取組について ・現地視察(大成古墳群等、船上視察) ○野田川大宮道路〔於:峰山総合庁舎〕 ・山陰近畿自動車道野田川大宮道路の整備状況について ・現地視察(京丹後大宮インターチェンジ等)
	28 . 7. 26	○JR奈良線高速化・複線化第二期事業起工記念式典(行催事等委員会調査)
	28 . 8. 6	○都市計画道路宇治淀線開通式(行催事等委員会調査)
	28 . 8. 28	○一般国道163号(北大河原バイパス)開通式(行催事等委員会調査)
	28. 11. 25	○エネルギー新時代フォーラム in 舞鶴(行催事等委員会調査)
	29 . 4. 30	○新名神高速道路(城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC) 一般府道八幡京田辺インター線 開通式典(行催事等委員会調査)

29	29. 11. 6	○近畿地方治水大会(行催事等委員会調査)
	29. 11. 27 ～ 28	○防賀川[於:山城北土木事務所] ・防賀川の整備状況について ・現地視察(防賀川) ○GLM株式会社 ・GLM株式会社における電気自動車の普及に向けた取組について ○商工労働観光部・建設交通部港湾局[於:第2ふ頭旅客ターミナル] ・京都舞鶴港の整備状況について ・船上視察 ○高野川 ・台風21号による被害状況について ○府道38号線 ・台風21号による被害状況について ○京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林 ・「芦生の森」の生態系維持回復に向けた取組について ・現地視察(芦生の森)
	29. 12. 5	○北陸新幹線(敦賀・大阪間)建設促進決起大会 (行催事等委員会調査)
	29. 12. 9	○京都環境フェスティバル2017オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	30. 3. 17	○山手幹線(府道八幡木津線)宮津・菱田工区開通式 (行催事等委員会調査)
	30. 3. 17	○赤田川河川改修 赤田川水門竣工式(行催事等委員会調査)
	30. 3. 26	○西高瀬川導水事業及び三条坊町公園竣工式 (行催事等委員会調査)
	30. 3. 28	○京都丹波高原国定公園ビジターセンター完成記念式典 (行催事等委員会調査)
	30. 5. 12	○平成30年度由良川水系総合水防演習(行催事等委員会調査)
	30. 5. 12	○京都舞鶴港 舞鶴国際ふ頭 機能強化事業完成記念式典 (行催事等委員会調査)

30	30. 7. 24 ～ 25	<ul style="list-style-type: none"> ○南丹広域振興局 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨の被災状況について(南丹管内) ・現地調査(国道423号(亀岡市法貴峠)、日吉ダム(南丹市)) ○中丹広域振興局 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨の被災状況について(中丹管内) ・現地調査(犀川(綾部市物部)、八田川(綾部市梅迫)、舞鶴福知山線(舞鶴市三日市)) ○丹後広域振興局 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨の被災状況について(丹後管内) ・現地調査(京都丹後鉄道(宮津市波路)、国道178号(宮津市日置)、竹野川(京丹後市))
	30. 10. 18	○全国道路利用者会議第68回全国大会 (行催事等委員会調査)
	30. 12. 8	○京都環境フェスティバル2018オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	31. 3. 24	○国道307号奥山田バイパス開通式 (行催事等委員会調査)

R1	R1. 6. 8	○塔の島地区改修事業完成記念式典 (行催事等委員会調査)
	R1. 8. 29 ～ 30	○洛南浄化センター ・水処理施設の増設について ・施設視察 ○淀川ダム統合管理事務所天ヶ瀬ダム管理支所 ・天ヶ瀬ダムの再開発事業について ・現地視察 (天ヶ瀬ダム周辺) ○南丹広域振興局 [於: 南丹広域振興局亀岡総合庁舎] ・老朽化橋梁の架替による利便性向上について ・現地視察 (宇津根橋) ○丹後土木事務所 ・昨年度の大雨等による被災からの復旧状況について (丹後管内) ・現地視察 (K T R (獅子崎周辺)、筒川) ○中丹東土木事務所 [於: 舞鶴21ビル] ・昨年度の大雨等による被災からの復旧状況について (中丹管内) ・現地視察 (大島川、矢ノ谷川)
	R1. 11. 26	○北陸新幹線 (敦賀・大阪間) 建設促進大会 (行催事等委員会調査)
	R1. 12. 21	○山陰近畿自動車道 (国道312号) 大宮峰山道路起工式 (行催事等委員会調査)
	R1. 12. 22	○嵐山左岸溢水対策起工式 (行催事等委員会調査)

2 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
2 8	28. 11. 7 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○島原半島ジオパーク協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークの環境保全と活用状況について ・現地視察(雲仙岳災害記念館) ○国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所〔於：阿蘇大橋周辺〕 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震による被災及び復旧状況について ・現地視察(阿蘇大橋周辺) ○みやま市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・みやまスマートエネルギーの仕組みについて ・施設視察(みやまHEMSプロジェクト体感ショールーム) 〔○博多まちづくり推進協議会〔於：JR九州 博多まちづくり推進室内〕※〕 <ul style="list-style-type: none"> ・博多駅周辺のまちづくりの取組について ・現地視察(JR博多駅周辺) ○北九州次世代エネルギーパーク <ul style="list-style-type: none"> ・響灘地区における風力発電及びLNG施設の概要について ・現地視察(風力発電NSウィンドパワーひびき等) <p style="text-align: center;">※JR博多駅前の道路陥没事故の影響により、調査を中止</p>
	29. 1. 24 ～ 25	<ul style="list-style-type: none"> ○香川県直島環境センター <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の処理について ・施設視察 ○広島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業の管理運営について ○コマツIoTセンタ近畿 <ul style="list-style-type: none"> ・スマートコンストラクションの概要について ・施設視察

29	29. 7. 11 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○博多まちづくり推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・博多駅周辺のまちづくりの取組について ・現地視察(JR博多駅周辺) ○福津市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・上西郷川のグリーンインフラの取組について ・現地視察(上西郷川) ○周南市役所[於:周南市地方卸売市場内 水素学習室] <ul style="list-style-type: none"> ・周南市における水素利活用の取組について ・施設視察 ○広島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害死ゼロを目指す「ひろしま砂防アクションプラン2016」の概要について ・現地視察(安佐南区八木地区)
	29. 11. 7 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜市会 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の水道アセットマネジメントの取組について ○横浜港 大さん橋 国際客船ターミナル <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ客船寄港促進に向けた横浜港の整備について ・現地視察(新港ふ頭) ○ゆめソーラー館やまなし <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県の次世代エネルギー啓発の取組について ・施設視察 ・現地視察(米倉山太陽光発電所 展望台) ○山梨県立リニア見学センター <ul style="list-style-type: none"> ・超電導リニア及びリニア中央新幹線の概要について ・施設視察 ○神奈川県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県のエネギー自立型住宅・ビル・街の実現に向けた取組について ○木更津市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・東京湾アクアライン等を活用したまちづくりについて ○東日本高速道路株式会社関東支社 東京湾アクアライン管理事務所[於:海ほたる] <ul style="list-style-type: none"> ・東京湾アクアラインの緊急避難体制について ・現地視察(アクアライン緊急避難施設)

30	30. 8. 27 ～ 28	<ul style="list-style-type: none"> ○富山新港管理局 <ul style="list-style-type: none"> ・環日本海・アジアの交流拠点としてさらなる発展を目指す伏木富山港の取組について ・現地視察(海王丸パーク) ○北越急行株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・地方鉄道の利用拡大のための取組について ・現地視察(六日町駅周辺)
	30. 11. 5 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ○秋吉台エコミュージアム <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全・創設のための取組について ・施設視察 ・現地視察(Mine秋吉台ジオパークセンター) ○対馬市役所 <ul style="list-style-type: none"> ・海岸漂着物の現状と対策について ・現地視察(対馬市厳原町椎根周辺) ○ツシマヤマネコ野生順化ステーション <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物保全の取組について ・施設視察 ○福岡県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の減量促進と環境リサイクル産業の振興、循環型社会の構築について ○九州旅客鉄道株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・九州旅客鉄道株式会社(JR九州)の経営基盤強化の取組について

R1	<p>R1. 7.25 ～ 26</p> <p>R1. 11.13 ～ 15</p>	<p>○岡山県議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年7月豪雨」災害検証委員会の提言等について <p>○岡山県備中県民局〔於：岡山県倉敷市真備地区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地視察（真備地区の河川復旧現場） <p>○国土交通省 九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の整備・管理におけるPFI事業の活用について ・施設視察 <p>○北九州市役所〔於：門司港レトロ観光物産館〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画事業によるまちづくりについて ・施設視察 <p>○山形県議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速鉄道幹線網の整備に向けた取組について <p>○女川町役場〔於：女川町まちなか交流館〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトな市街地形成の推進について ・現地視察（シーパルピア女川 他） <p>○東日本旅客鉄道株式会社仙台支社〔於：柳津駅〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス高速輸送システム（BRT）の運用について ・施設視察 ・現地視察（BRTバス乗車：柳津駅～志津川駅間） <p>○東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備・維持管理に係る研究開発について ・施設視察
----	--	---